

#### 第4回 国立市保育審議会

令和6年11月25日

【竹内会長】      こんばんは。定刻は過ぎましたが、すぐ始めましょう。

これより、第4回国立市保育審議会を開催いたします。それでは、早速、事務局より配付資料の確認と本日の進め方の説明をお願いいたします。

【事務局】      国立市保育幼児教育推進課の清水でございます。それでは、まず本日の配付資料の確認をいたします。本日は、資料といたしまして、事前に郵送しておりますが、次第のほか、資料の右上に資料1と書かれた本日のパワーポイントの資料、資料2-1、2-2のアンケート調査票を配付しております。資料の不足でしたりとか、本日、お持ちいただくのをお忘れの方がいらっしゃいましたら、お申し付けください。

続きまして、本日の議題について、次第に沿って御説明させていただきます。まず、前回の審議会でご意見をいただきましたアンケート調査や、評価の観点についていただいた御意見を事務局にて反映した状況について、御説明させていただきます。次第の2番目については、既に6名の委員様が矢川保育園を御視察されておりますので、御視察された方から、お一人ずつ御意見を、本日共有していただきたいと思いますと考えております。

次第の3番目については、次回以降実施予定のヒアリング調査について、皆様から御意見を頂戴できればと存じます。次第の4番目については、今後の本審議会のスケジュールについて事務局から御提案を差し上げたいと存じます。次第の5番目については、本審議会の諮問事項が（1）矢川保育園民営化の評価検証について、（2）「国立市保育整備計画」の今後の方向性についての2つであるところ、現時点は（1）の評価検証に多くのお時間を割かせていただいております。（2）の保育整備計画については、審議会のスケジュールの最後の方で御審議いただくことを想定しておりますが、ここで一度頭出しだけさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

【竹内会長】      ありがとうございました。それでは、議題1「前回審議会での御意見の反映案について」を議題とします。

①、前回、第3回審議会では、各委員から積極的な御意見を賜りました。ありがとうございます。

また事務局に戻します。お願いします。

【事務局】      まず初めに、アンケート調査について状況を御報告いたします。第3回審議会でご委員の皆様から御意見をいただいたほか、審議会後に委員の皆様から事務局へ追加で御意見をメールにて頂戴し、アンケート案を作成いたしました。そのアンケート案を会長、副会長に御確認いただきまして、基本的には事前にお送りしております内容で確定というふうになっております。現在の矢川保育園の保護者様、民営化を経験した矢川保育園卒園児の保護者様、矢川保育園の職員様、民営化を経験した公立の派遣職員に対して、アンケート調査のお願いを近日中にさせていただく予定です。

御意見をいただいたことにより、アンケートのたたき台から修正を加えた主な点を御報告したいと思います。まず全体的な部分といたしましては、もともとのたたき台では選択肢にあった「どちらとも言えない」をなくしまして、代わりに「分からない」という選択肢を追加、さらに、各質問に自由筆記欄を設けました。質問数も削減し、保護者は最大13問、事業団職員は15問、派遣職員

は22問といたしました。

また、保護者向けの質問内容は「お子さんは楽しく登園していますか」や「園の職員が生き生きと楽しく子どもと接していると思いますか」など、保育の専門家ではない保護者が、目で見てもしくは感じたことを、お答えいただきやすいよう表現を修正いたしました。

また、職員向けのアンケートのほうですが、引継ぎに関する内容を増やしました。なお、本日お配りした資料は、紙ベースでの回答用紙でございますが、アンケートのお願い文書にQRコードを掲載し、原則としてはQRコードを読み取り、インターネットから御回答をお願いするようになりますところでございます。

アンケートは、12月20日に回答を締め切り、集計結果は、1月中にメール、または郵送にて、委員の皆様にお知らせさせていただこうと考えております。

以上、アンケートについての状況報告でございました。

続きまして、スライドのほうで説明させていただきますが、前回審議会において、委員の皆様から御意見を伺いました、評価の方法の観点についてでございます。特に御意見が多かった資料1の3ページ目のとおり、修正案を事務局にて御用意させていただきました。御意見を頂戴したいと存じます。

また、スライドにはありませんが、前回審議会で御意見のありましたところで、諮問書上の人的効果を分かりやすく言い換えた表現について「人材」というふうに言っていたところを「人員」に変え、「民営化により生み出された保育人員の状況」とすることについても、御意見を頂戴したいと存じます。

よろしくお願いいたします。

【竹内会長】 ありがとうございます。アンケート調査、確定版ということで、これから回答を集めていただいて、回答が集まった後に、改めて皆様から御意見を頂戴したいと思います。

あとは、資料1の3ページ目、評価の観点のところの修正案、並びに「人材」を「人員」と、言葉をちゃんと使うというところで、御意見ありますか。

御異議はないようですので、以上、説明いただいたように決定というふうにします。

それでは、議題2以降に移ります。再び事務局、お願いします。

【事務局】 失礼いたします。議題2「現地視察の感想の共有について」でございます。10月以降、皆様、お忙しいところ、矢川保育園視察の日程調整をしていただき、ありがとうございました。日程の都合上、本日時点で全ての委員の方々に御視察いただけていない中、申し訳ございませんが、視察を既に終えられた方から、お一人ずつ御感想をこの場で共有していただきたいと存じます。

市立西保育園の視察をされた方は、比較した御感想なども併せていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

【竹内会長】 ありがとうございます。最初は、アポをとっていただいた午後の視察ということで、みなで行こうということでしたので、やはり少しでも見せていただければ、午前中のほうが、よりお子さんの状況も分かるということで、午前中にしようと、事務局のほう、いろいろとお疲れさまでした。例えば10分、1時間見たところで何が言えるのかと思いますが、でも、それでも、ただ机の上で言っているのではなく、現場に行くというのはとても大事だなと思います。

順番、こういう感じで、お1人ずつお願いできますか。

【田中委員】 時間はどれくらいを目安に。

【事務局】 事務局から、すみません。一応、スケジュール上、1人10分ぐらいのところ。

【竹内会長】 最大ね。ノルマじゃないので、大丈夫です。

【宮田副会長】 宮田です。本当に御準備くださいまして、ありがとうございます。私のほうからは、やっぱり施設は子どもと、その保護者のためのものだろうというふうに思っていますので、その視点から拝見させていただいたつもりです。感想というと、今10分以内でという感じでしたけれども、でも、たくさんになってしまうので、おおよそ3つぐらいにして、3点にしてお話をさせていただきたいと努力したいと思っています。

不足はあるかもしれませんが、その場合は、また御質問をいただいて、補いをさせてください。

1つ目は、安心安全というような点で拝見しました。それから、2つ目は、保育とか教育環境の点です。これは素材とか、玩具とか、遊具とか、それらの設置状況です。こういうものは、保育の質という、構造の質というふうに呼ばれているものかと思いますが、それらに関して、大きな課題というのは、私のほうは特に感じませんでした。

重要な点を1つ言い忘れました。矢川保育園の感想を述べています。西保育園さんは、以前、ちょっと伺わせていただいたこともあり、私の視察のスケジュールは矢川保育園さんのみということでしたいており、矢川保育園さんの感想になります。

3つ目は、いわゆる保育のプロセスの質と言われるところで、これが保育の質においては一番重要なものとされています、やり取りの質というところです。子どもたちが非常に安定して、思い思いに自分の遊びを展開していた。本当に会長がおっしゃられたとおり、短い時間ではあったので、先生方が思いを込めてされている保育を、本当に正しく見れたかどうかというのは、また拝見できればいいなというふうにも思っていますけれども。

でも、少なくとも私が拝見させていただいたところでは、子どもたちがとても自分の思いを実現させて過ごしていたか。ちょうどお誕生会で、お誕生日の方をお祝いしようというような、そういう日でもありましたし、思いに包まれていたということは共有いただけたかなと思っています。

ただ、このやり取りの質といったところで注目しておきたかったのは、保護者との連携というところで、質問をさせていただきましたし、実際の教育も拝見してきました。その辺で、別に細やかなやり取りがなされていたと思っています。やり取りの質、もちろん、子どもと保育者のやり取りの質はとても重要なんですけれども、もう一方で注目しておきたいのは、同僚性というところで、保育者と保育者の質、保育者と保育者のやり取り、保育記録の共有とか、園内での研修だとか、互いに保育について語り合うというところで、これが十分かどうかというのは一言では言えないところで、こういったものはもともと時間がかかるものではあるかと思います。

まだ園長先生も、トップも代わられて、それほど長い時間もたっていないということもありますし、園自体もそれほど長い時間をかけて建っているというところではないと思いますので、ここは視察の際に大事なのは理念が共有されることであると。価値観が異なるのは、これは人なので、それはそれで異なる価値観があってもいいんですけども、理念が共有されて、そして方向性が共有されるということは大切なのでという中で、園長先生とも、その辺りは共感し合えたかなというふうには思っています。

簡単ですが、感想としては以上ということにさせていただきます。

【久米委員】 久米です。私はまず、矢川保育園のほうを見学させていただきまして、保育のプロセス等までは見る余裕がなく、先生もお話ししてくださったので、環境的な部分で気になることがあったので、そのことをまずお伝えしてよろしいでしょうか。以前も市内の園長会で見に行ったときと

同じような思いだったんですが、とにかく子どもにとって刺激があり過ぎるなというのが印象でした。

うちの園は、私自身が感じた特性のあるお子さんをたくさん抱えているということがあって、ついそういう方向で見てしまうんですが、どちらかというと商業施設的な雰囲気があり、ここで私が保育するとなると、ああ、いろんなものを買いたいなという思いだったり、あとは、手を洗う場所が年齢の発達に合っていないなという部分であったりとか。

すみません、粗を探したわけじゃないんですが、自分が保育者として保育をする部分ですごく気になるというのが、部屋の形がちょっといびつだったり。きっといろんな事情があるんでしょうけど、あと園庭が端から端が見にくくて、これじゃ、目が届くのは大変だろうな、先生方、その分、配置をかなり多くしないと子どもの安全が守れないだろうなというところで、最初に矢川保育園を造るときに、設計の段階でどのくらい保育の専門家がいたのかな。お金をかけて造るのであれば、保育の専門家という人がどのくらい入って設計を考えていくのかな、そうしたら、ごめんなさい、酷評みたいで、すごい本当にごめんなさい。でも、やっぱり先生方の保育のやりづらさというのは、建物を見てとても考えさせられました。

でも、今いる園長先生をはじめ、皆さんで子どもの様子や保育のことを話し合いながら、少しずつ改善されているというのも、大変御苦労があるんだろうなというふうに思いました。ざっと、建物のほうで言わせていただきます。

あと、西保育園さん、私、初めて公立の保育園さんを見せていただいて、1点だけ。国立市の公立だと思うんですけど、国立市の公立のやり方と、民間の保育園のやり方が違うというか、新入園児の受け入れ方が違うなというのをちょっと感じました。どうしてそういうふうになっているのかは詳しくお聞きできなかったんですが、保護者対応の1つにしても、公立のやり方と、私立のやり方、それぞれのやり方が今まで積み重なってできていったのは、何か思いがあってやっていっているんだろうなというところだったんですが。

その辺り、もうちょっと掘り下げて聞いてみたいなど。私立のやり方が正しくて、公立が間違いだとか、公立のやり方がすばらしくて、私立が駄目だとかということではなく、その組織の違い、公立、国立市には4園あるので、4園でいろいろ積み重なってつくってきた歴史があるんだろうなと思いつつ、私立は10園あったら、10園、それぞれ方針ごとに考え方が違ったり、やり方も違うというところで、比較するのは難しいんですが。

公立と私立の歴史の違いというのは、その部分で感じましたので、ほかにもきっと何かあるのかな。でも、今いる先生たちがよりよく働いて、子どもたちがその下で安心安全を守られるということはあるので、今までの状況ということよりも、これから先、どういうふうにしていくことが一番ベストなんでしょうかということを考えていくことに重点を置いたほうがいいだろうなと思いました。

**【数納委員】** 数納です。よろしくお願いいたします。私も、矢川保育園と西保育園の両方、拝見させていただきました。まず率直に一番思ったのは、公民問わず、どの園にも特色やよさがあるなというのを本当に感じてまいりました。その中で、公立保育園の役割って何だろうなというところを、両方の園長先生方とお話しをさせていただいてすごく思ったところなんですけれども、もちろん園舎の造りだったり、保育のやり方だったりというのは、いろいろ目につくところや考えるところもありましたけれども、民間ということを考えてときに、じゃあ、公立の保育園の役割ってどんなところにあったんだろうな、私立になったということは、どういうことなんだろうなというのを思ったんですけれども。

まず、公立園は市の保育園なので、運営とか、経営とかは市のほうに託されているというところから、より一層、子どものこと、保護者のことを考えて保育ができるんだなというのを、本当に感じていました。私たちは、園児の入園があってこそ運営費があってというところがありますので、まずそこから考えていかなければならないというので、公立園さんはそういうことがなく、本当に子どものこと、保護者のことを一番に考えて保育ができるというところは、すごくいいなと。

園長先生のお話を聞いていて、本当にすごく熱意を持っていらして、そういうところはいいなと思って話を聞いてきたんですけれども。だからこそ、この公立園さんが情報交換とかもいろいろしながら、公立園さんがモデルになっていただいて、市の保育園が偏りなく安定していけたら、もっと国立のレベルも上がっていくのかなというようなことも、ちょっと考えたりはしたんですけれども。

矢川保育園さんに関していうと、引継ぎということで、建物の件もそうでしたし、この建物を建てるときに、じゃあ、保育の専門家がいたのかというところもお聞きしたりとか、そういうこともありましたが、民営化ということを考えたときに、やっぱりどの園にも特徴やよさがあるというのをすごく感じまして、その熱意を民営化をするというところで、もっといい方向に持っていけるような何かがあるんじゃないかなというふうに考えてみました。

公立園さんこそ、質の高い保育をもっと目指してやっていただいて、私たちもそこを見習ってやっていきたいなということを考えて、帰ってまいりました。

以上になります。

【田中委員】 田中です。私は、10月24日に宮田先生と一緒に矢川保育園、11月6日に3人で矢川保育園と西保育園に行ってきました。今、幾つか感想が出ているんですけど、私も3つほどのところから、お伝えできればと思います。

まず、保育の環境では、正直驚きました。あれは保育園なんだろう。私、矢川プラスに、子どもたちと遊びに2階に行くんですけども、矢川プラスには、2階のところに回り廊下、回るところがあって、1階の真ん中は吹抜けなんですけど、そこにアスレチックの場があるんです。矢川保育園のところは、それ以上に大胆な、遊戯室って書いてありますけども、ホール兼子どもたちと遊ぶ場、そのところが端から端まで、大きなトンネルのようなアスレチックのネットみたいなもので。これは、私たち、質問する中で、大変、1階に乳児、2階に3・4・5歳の幼児が過ごしているわけなんですけれども、様々な形で気を遣ってしまう。

落ち着いて、幼児が遊んでいるときは下で過ごすことも難しい環境配置ということで。まず、中央にあるアスレチックの下で遊んでいる子どもたちの環境を強く思いました。あれはないですね。私も2011年に保育園の建て替え担当で、いろんな形で職員と設計事務所と話をしてきたけども、あれはさすがに。設計のところを聞いてみますと、環境デザインさんでしたっけ、相当これまでも保育園設計には関わられているということでしたけれども、ホールというか、中央のスペースでびっくりしました。

同じように環境のところで保育室、先ほど意見も出ていましたけれども、なぜあの形になったのかな。扇形のところで、広いところにホールがあって、保育室があるという形。ですから、全体に保育室が、さっきいびつな形と言われましたけれども、大変バームクーヘンを切ったような感じの台形のような、それも小さいクラスだと随分短い辺が狭い、動線も、外から用事がある場合なども、すぐ入ったところで子どもたちが食事をする。そのところ通らないと中に入れないような。

あと、保育室の面積で見ると、基準をクリアしているということでしたけども、保育室の外側のと

ころに受入れコーナー、一応固定はされていますけど、何かのときには外せるという形で、言ってみれば保育室の外のところを保育室の一環でということで、平米数を満たしているって話でしたけども、あれは保育室とは言えないなと。受入れ室、別個に持たれるということ、私も現場に長くいたので感じました。

先ほども、同じように設備備品があったんですが、小さい子の遊戯室のところの流しが、2歳児まで、高さ、奥行き、幅など、えっ、何で2歳ぐらいの大きくなった子まで、それこそどういうふうに手を洗うのか見えなかったんですけれども、これって年齢に応じた設備などが当然一つ一つ考えられているはずで、細かい設計図書とかがあるんですけども、全部書いてあると思いますが、そういうところからしても、先ほど宮田先生のところでは、環境の話もされたんですけども、私はびっくりでした。

でも、その中で2つ思ったんです。それをどういうふうに使いなしていくか、または、園庭に出たときに見通しが悪くなってしまうことに対して、どういうふう職員間でチームワークを組みながら見ていくか、いろいろな配慮のことなども園長先生のほうからお話がありましたけども、建物がいや応なくずっと子どもたちの成長に関わってくるということでは、何とかならないかと。

ホールの上のアスレチックについては、あそここのところによく保育室なんかでは、きれいな透き通った、シュタイナーの保育園なんかでよくやってありますけれども、色の淡い感じの布をやりますけれども、ともかくあれば隠したいとか。実際に使っているところを見ることができなかったんですけども、環境では驚きました。驚きと同時に、いろいろ手だてを講じながらやっている園長さんはじめ、職員の方たちの御苦労も見えました。

今後、新たにどういう形か民営化が進むとすれば、新しく建て替えなどで造り直すときに、職員の市の方が入られたとは思いますが。それから、聞いてみると、公立の先生たちも多分入られていたんじゃないかと思うんですけども、その辺でのいきさつというか、ああいう形に決まらざるを得なかったのか、そういうことも具体的に聞いてみたいところでした。

子どもたちが、先ほど宮田先生も、誕生日会でお父さんが見えて、とても楽しそうに、お父さんも朝、一生懸命スマホから写真を取り出して、大きく映して、子どもたちに見てもらったり、質問に答えたりしていたんですけども。一つ一つの断片でしたけれども、職員の方、絵本を持ちながら読み聞かせをしたり、子どもたちに伝えたりするやり取りは、いい感じで進んでいたように感じました。

2階の保育室のところでの幼児なんですけども、それぞれ上のところが、おうちだったら、普通欄間みたいな形になると思うんですけど、はめ殺しの透明の亚克力板でしょうか、あれも大変困っていました。2階はただですら暑く、換気のところがとても大事だけれども、全て上が通っていれば、もう少し空気の流通、入替えもあるんじゃないかと。

あと、矢川保育園のところは、とてもすてきな形とか、部屋のコーナーとか、そういうことで期待して行ったんですけども、正直、どういうふうにしていったらいいんだろう、これをどういうふうに生かしていったらいいのか、設計の検討も含めて感じたところです。

西保育園のところが、私も四、五十年前じゃない、保育の現場に入っていて、とても懐かしさを感じたんです。公立の方たちは、お互いのいろんな意思疎通を1園だけじゃなくてやることができますし、もちろん、同一法人で何施設が持っているところが同じようにやっているかと思うんですけども、職員の異動なども定期的にやられているでしょうし、そういうところではなつかしさや、それから、丁寧に園長先生も案内してくださったんですが、2つのことでちょっと感じるがありました。

1つは、公立保育園の運営の特徴のようなんですけども、例えば園だより、こういった資料を見ても、園だよりは毎月1回とか。ところが、クラスだよりは、クラスによって、その都度クラスさんで考えて、取組があるときには、私が見たときには3歳児だったかな、2階に上ってすぐのところ、毎日のように、おたよりが出て掲示がしてあるのが分かりました。

もう一方では、その決まりをつくる方がいいとも思えないですけども、公立の中で今行われている1つのやり方みたいところで、見直しというか、ちょっとしか見ないから、間違っちゃっているかも分からないけども、そういったところが職員研修の中でどのようにされているのか。保育室の担当のところでは、昔々やられていたんですが、子どもたちの作品がいっぱい掲示されたり。

でも、今は違いますね。作品でも構わないし、写真でも構わないし、でも、必要な時期や、保育や、そのときを押さえながら伝えてあって、随分、ああ、そうか、環境が昔の雰囲気だったからかな、なんて思いながら。造りは、西保育園は建ててから40年、50年近いですか。昔造られたところもあったりして、園庭を広く取る。園舎が一方に配置される。それはやむを得ない状況であったと思いますし、そういう中で工夫したり、2階の幼児室にプランターを置いて——ここでもあったかな、何か育てたりしているところもありました。

1つ、残念だったのは、矢川保育園では、終わってから、部屋の環境もあったかと思うんですけども、懇談することができたんです。時間が遅くなって、ずれていってしまったこともあったりして、聞きたいことが立ち話の中で、それも園長先生の話の縫うように、一生懸命きっかけをつくりながら聞くことでしかなかったんですが、落ち着いて、たよりとか、しおりとかを見ながらお話ができたによかったなど。そうすると、見えていないものも見えてきたのかなと思いました。

最後に、しおりのところは、これ毎年点検がされているのか。地図を見ても、矢川保育園のところが、南側でしょうか、矢川保育園と書いてあったんですけど、必要な中身のところは、保育園のしおりなど、その都度、職員全体の中で、毎年じゃないにしても見られると思うんですけども、今の新しさを感じないというふうに感じました。

すみません、長くなりました。

【竹内会長】     ありがとうございます。私は、矢川保育園、西保育園さん、少しだけですけども、お邪魔しました。もう既に委員からも出ているとおりでですけど、やはり同じ感想ということで、矢川さんのほうは、使いづらい印象は否めなかったですね。部屋の形が扇形になっていて、入り口は小さく、奥に行くと四角があるというのはちょっとびつくり。あとは、既に御指摘がありましたように、扉の手前も、それは保育室の面積にカウントしていて、若干、チートというか、ずるみたいな感じがあって、何でこんなことをしちゃうのかなというのは感じざるを得ないところがありましたね。

そして、狭いのかどうか分かりませんが、収納もなく、多分あの箱を造り、中で業務というか、保育をしていく中で、どのぐらいの備品が出るかって、多分計算していないまま造っていて、そこら中に備品が置いてあるんですよね。椅子とテーブルをこんなふうに置いてあったり、写真を撮ればよかったんですけど。

今、そこに隅っこに椅子を積んでいますよね。ああいうシーンが、まだあそこは凹んでいるからいいんですけども、ちょっとでも隙間があろうものなら備品が積んであって、危ないのもそうですし、ごちゃごちゃしていて、一見すると、ネットは確かに自分の子どもが小さい頃、ああいう遊具を見つけたら、全部チェックしていた時代を思い出すと、確かに楽しそうとは思ったんですけど、あそこで1日、朝から夕方まで暮らす場所ではないなというのは、確かにそうですよねというのは思いまし

た。

あと、細かい点ですけど、水回り。高さ等は、私はすみません、そこまでは全然、素人ですから。結局、水回りにいろんなものを置く。例えば小さいタオルを置いたり、石けんを置いたり。相変わらず100均で買ってきたり、牛乳パックをつなげて箱を作ったりしている感じがあって、これは随分、何十年やっているんだから、現場を見ればどういう配置にすれば、そう細々としたようには。結局、そういうものがあると、ほこりもたまりますし、危ないですね。全然生かされていないという気は、私、素人ながらちょっとびっくりしたのと。

園長先生から伺った沐浴台ですか、確かに台に上げてやると、大人の腰は楽なんですけど、3歳児の足とおしりを洗いたいんだったら、そんなことはできないので、地面でシャワーを浴びたらずっと楽なのに、多分使っている人が造っていない設計感がすごいあって、沐浴台もそれだけ上に上げなきゃいけない。

あとは、音がすごい。園長先生も文句をとというか、不満を言っていて、物すごい音なんだそうで、やっぱり3・4・5歳さんが遊ぶと、すごい音なので、ゼロ・1歳のお子さんたちっていうのは、本当に安らがないんじゃないのかなという感じでした。素人ながら、よくある、使っていない人が造っちゃったなという感じがあって、どこまでそれがあったのか、これはちゃんと検証するべきかなとは思いました。

私、本が大好きなんです。読み聞かせがどこまでどうなのか分かりませんが、私は子どもにずっと本を読んできたので、ちょっと本棚にある本を見るんですよ。「だいくとおにろく」、なつかしいなと思って見ると、1980何年かの本でぼろぼろで、これは何なんだろうなというのがあって。いわゆる福音館なり、いろいろな定番本があると思うんですけど、その辺の古いもの、90年とか、そういう図書館からのお下がりだったりもあって、ちょっとびっくりでした。これは、どういう保育方針なのかによるのかもしれませんが、私としては本がすごい大事だと思っているので、そういうものがぼろぼろのしかないのは、ちょっとショックでした。すみません、ユーザー目線からの視点です。

ソフト面ですか、気遣いに関しては本当に素人が90分見たぐらいでは何も分からないので、私が変にコメントしてもしょうがないかなという点があります。

西保育園さんのほうは、ちょうどお邪魔したときが、芋煮ですか、外でたき火をし、そこで芋を煮て、みんなで食べるシーン、ちょうどイベントのときだった。イベントで喜んでしまったらいけないのかもしれないんですけども、そういうシーンでお伺いしたのは、ちゃんとお子さんたちが材料を切ったりして、みんなで一緒に作るというシーンをやっているんだと。

印象的だったのは、前までは焼き芋であったと。芋をホイルに包んだのかな、分かりません。たき火はするんだけど、芋というのは結構時間がかかるから、時間がかかるので、結局お子さんがみんな寝ている、お昼寝のときにできて、お昼寝から起きると出来上がって、さあ、皮を剥いて食べるという感じなので、みんなで和気あいあい、わいわいやりながら、たき火を囲んでというシーンではなかったので、だったら、みんなでできる芋煮にしようという形。

そうすると、材料を切るのも、みんなで参加できる。たき火を囲みながら、遊ぶ子は遊んだりしていても。いいのは、西保育園に近づくにつれて、たき火の匂いがしてくるわけです。そういう、何か違った非日常みたいなものを目の前で。学校と違っていいのは、学校だったら、みんなでたき火の番をして、見ていなさい、みたいになるんですけど、保育園は見たい子を見るし、見ない子は見ない。でも、近くにたき火があるシーンというのは、何かすごくいいシーンだなと。



西さんは、ちょうど遊んでいるシーンだったと思うんですけど、私のようなおじさんが行っても話かけてくるお子さんがいたりして、非常にまったりしたい空間だなとは分かりました。場面、場面を切り取っているんで、どっちがどっちということは分かりませんが、私が拝見したシーンはそういう感じでした。

あと、やっぱり広いというのがあって、これは全然ストックの違いで、昔のいい時代だったのかなとは思いました。使い勝手は分からないんですけど、何せ古い。昔からですけども、お伺いしたのは、本当に保育士さんがすごく積極的に、かなり主体的にがっちり入って、設計段階からやったんだということはお伺いしました。例えば、確かに言われてみればそうだなと、ちっちゃい子と来て、窓を開けられなかった。手を挟んじゃうし、勝手に出ちゃうし、それでも換気したいときには、窓の上のほうで別枠になっていて、開くと。確かに保育士さん目線だからこそ、絶対必要な気づきなんているのはあったりして、ああ、なるほどなど。

私はユーザーの視点から、ユーザーというか、保護者視点からよかったと思うのは、覚えているんですけど、いろいろ引渡しをして、その後、着替えを持ってきて、自分の子どもの着替えを詰め替えるシーンって、結局、保育室の中に入って行って、ちょっとごめんねとか。そこで、ほかのお子さんたちとやり取りがあって、それも楽しいシーンではあったんですけど、いろんなものを持って、うっかり変なものを落としちゃって、事故につながったら怖いとか、ちょっと思ったりしながらも、よくやっていたんですけど。

西保育園さんの面白かったのは、壁が向こう側とこっち側でつながっている、こういう入れ物があって、廊下側から箱を入れると、向こう側につながっていて、向こう側から取れるという形なので、今日、自分のをこうやっておくと、部屋の側からも、ぱかっと開ければ、廊下側から入れたものが取れるみたい。これは、なるほどなどと思って。すみません、私、ユーザー、1人の保護者なので、それは本当に保育運営上いいかどうか分からないんですけど、そういった工夫をすごく見て。

それは、さっき見たものが確かに商業施設みたいな、1日遊ぶにはエキサイトしそうだけど、暮らす場所なのかという、対比が非常にコントラストがあって。次、2園目みたいなのを考えるのであれば、矢川のほうはどうだったのか。犯人捜しをしてもしょうがないんですけども、ほとんどこの園ではうまくいかなかったねみたいな感じで、ちゃんと振り返ったほうがいいなどとは思いました。

とはいうものの、西保育園さんでお伺いしたのは、階段を上ったところに防火シャッター、いつの段階か。もしかしたら、防火シャッターは後からついたのかもしれないですね、消火基準があって。防火シャッターがあるので、階段に落下防止の敷居といいますかがつけられない。これは、確かに階段を見ると危ないなどになるので、その辺の日々どう使うかという設計というのは非常に密接なので、どうかなというのは思いました。

すみません、私は、ソフト面という言い方はよくないかもしれませんが、保育のやり取りの質に関しては素人なので分からないんですが、そもそも建物の設備等に関しては、いろいろ違和感があったというのは実際の事実です。

それで、ついでに言っちゃうと、びっくりしたのは、久米委員が初めて公立保育園を御覧になったというのは結構びっくりで。これだけ長くやっている、小さい、こじんまりした、そういう機会が市役所をハブにしていけないというのは、非常にキャリアの長いプロフェッショナルな久米委員でも、そういうのがないというのはちょっとびっくり。公立のほうでお伺いしたのは、園長さん同士で非常にしっかり情報交換があると、ある委員からも聞いた中で、どうしても……。

これは、私立なり、公立園の話を置いておいても、私立園ですと、経営のことが常に気になってくるところが、よくも悪くも。この場合はいい意味で、公立さんですと、一切気にせずに、がっつり子どもさん、保護者さんと向き合っているという印象は、委員さんもおっしゃっていたので、ああ、そうなのかなと。人事交流は西の保育園の園長さんは東に行って、また西に行って、また東で見て、またもう一回西という形で、いい意味でノウハウが循環していくフローがあるので、そこはまさに公立の運営の仕方の強みかなとは思いました。

私立園さんとの人事交流でも、それこそ1日交換体験で、素人の思いつきですみませんが、何かあるのかなと。思いついたのは、すみません、昔、18世紀ですか、壊血病ってありましたね。ビタミンCがなくなると、体が悪くなって、ばたばた亡くなっちゃうんです。特に船乗りたちがそれにやられて、生鮮食材がないものですから、どんどんみんな死んじゃったんです。大体世界一周とかすると、もう9割ぐらい、半分以上はみんなそんな感じで死ぬ。

海軍で戦争して、皆さん、海軍の兵士、亡くなるんですけど、結構、壊血病で死ぬ人が多くて。これはビタミンCがない。ビタミンCの存在が分からなかったんです。柑橘類なり、タマネギを持っていくと、死ななくて、死者が随分減るというのが分かって、それが1750年前後だったんです。ただし、それをイギリス人が発見したんですが、イギリス海軍が採用するかというと、全然なくて、数十年たってようやく採用されたと。そんな命に関わることですが、10年、20年、30年かかると。

同じような話で、脚気もそうですね。白米を食べ過ぎて脚気になっちゃうということで、これも日本海軍でしたか、帝国海軍かの話があって。これも、本当は玄米を食わせればいいんだけど、徴兵している海軍に行けば銀シャリが食える、玄米なんか、とても食べられないとかいうことで、また対策が起きる。ということで、グッドプラクティスというのが、ちゃんと国立市の中でさえ共有されるのでは、1年、2年じゃかからないと。

矢川保育園の設計を見て、西保育園さんの水回りと、矢川保育園さんの水回りを見たときに、四、五十年たっているのに全然変わっていないんだと見て、もうちょっとどうにかならんのかなと。すみません、素人ながら思ったというのが感想でございました。

取りあえず、1周しましたので、いいですか。1個、宮田先生。

【宮田副会長】 ありがとうございます。そうか、そんなにしゃべってよかったのみたいな、さっき簡単過ぎたかなと、すみません。ここ1周しているので、構造の面では、別に私、全く関係者ではないんですけども、思うにはですけど、多分、そういう意味では、日本の従来の保育教育には、ちょっとそっくりそのままマッチするような構造ではないのかもしれないのかなと、いい、悪いですなくて。

多分、いろいろな理念が入っている建物のような気がしたんですよね。だから、保育の方法とか、流れとか、出入りづらさとか、そういったことから見直していく必要がきっとあるのかなと。新しい形の、それこそ子どもたちがネットに上って、わあっと体を使って元気よくというのではなくて———それがいい、悪いとかではなくて、あの構造を見たときに、多分あそこの真ん中は、ピアツツアという、イタリアでいうと広場になっていて、思想的に。合っているかどうか分からないですが、見ただけで思ったのは。

それで、どちらかというと、静かに過ごしていくというふうな場所なんだろうなというふうな気がするんです。ピアツツアに行くと、いろんな人たちと出会える。それぞれの保育室というのは、個々

に過ぎしていくような場所というようなイメージなのかなと思ったんです。それと、時間に合わせて大きな動きもできるようなところ。

でも、私の今の話は無理があるかもしれないですね。やってみないと、分からないところです。だからこそ、私も、記録が取られているから、あまり脇にそれないほうがいいかもしれないけれども、与えられたところで何とか考えようと思ってしまうタイプだからというのものもあるかもしれないですが。だからこそ、理念を語り合って、どういう保育をしていこうかというようなことが非常に重要で、多分、もしかすると人によっては全く見たことのない保育とか、誰もやったことのない保育みたいなものに少しずつチャレンジしていくという中で、建物との保育の内容、方法とが少しずつマッチしていくというようなところに。

でも、だからといってというのでしょうか、あれでよしでもないんです。やっぱりユーザーの視点に立って、保育者が常に建築家さんと手を入れられるとか、何年かごとに見直しがなされる。例えば、上に空気が、風穴がないという点は、積極的に工務店さんとか、デザイナーさんと話し合って、変えられるところは変えるというようなことも、もちろん込みでやっていくということは大事だとは思いますが。

構造を拝見したときに、そんなことを感じましたね。水道の高さとか、確かに。そして、よくありがちなのは、私、そこは見てきませんでしたけど、テラスから園庭に出るときの高さとか、あれがどうしても乳児さんに合わなかったりというのは、よく見られるところだと思うんですが、スノコを置いたりとか、いろいろプラスアルファの工夫が求められたりとかっていうようなことはよく伺ったりするんですが。だからといって、いいというわけではなくて、そういうところをやり取りしながら、矢川としてつくり出されていくことが重要かなと。

そこには、先生のお話にもありました、少し時間を見ながら、使いながら、意見を出し合いながらということが欠かせないんじゃないかなというふうに思います。繰り返してごめんなさい、そのためにも理念を常に語り合う、ここでどんな保育をしようか、静かな時間で、静かに物語を聞く、このホールの中でというのもいいし、音楽会で、ホールとしてすごく音が響いていいと思うので、そういう時間を過ごすというので、音というのをテーマにプロジェクトの保育をされていて、そして、静かな音とか、心地いい音とか、ちょっと嫌な音とか、それを絵にしてみようかみたいな、そういうプロジェクトに取り組んでいただいてもいいと思うしと。

そのことも、園長先生にはお話をそのときはさせていただいたかなと思っています。最後、ちょっと理念が大事かなというのでまとめてしまったお話です。

【竹内会長】      ありがとうございます。こんな感じでたくさん。どうでしょうか、何かもうちょっと言いたいとか。特に議論をする場ではないんですけど、まだありますか。

田中委員。

【田中委員】      1つだけ、田中です。概要だけでいいんですが、これは、どのように確定されて、形となってきたのか。造りながらもいろいろ修正されるようなことも、中にはあると思うんですけども、一度は、やはり現場の公立の職員の方たちがどのように参画されて、設計、それから基本設計から、具体的な設計、実施設計をするところとか、現場の中に持ち帰られたり。

もう一方では、事業団の方たちがその設計のところにどんなふうに関与されてきたのか、そこだけでも教えてください。

【竹内会長】      感想を述べるシーンという形だったんですけど、私もその話を聞きたいし、ぜひ答

申に盛り込むべきかなと思います。今、その辺は資料、手元にはないですね。これまた、次回に反映しましょうか、事務局と会長で。どうもありがとうございます。

何かありますか、特に感想。視察を踏まえて、こういうことは答申に書いたほうがいいのではないかとこのところがあれば、事務局の準備資料にできますが、いかがですか。

【能登屋委員】 能登屋です。よろしくお願いします。今回、まだ僕、自分は視察に行けてはいないんですけど、日々子どもたちを預ける中で感じていることは、多分皆さん、おっしゃっているところと合致するところもあったりしています。

あと環境のところとかについては、多分、最初、始まって子どもを預けていたときにはなかったエアコンが途中からついていたりとか、多分やってみて、先生たちが、子どもたちの生活が少しでもよくなるようにというところは配慮してくださっているんだろうなと思うところは、変化としてあったので、そこはお伝えしたいなと思っています。

いろいろ、気になるところは、僕もあったりもするので、この場では控えるというか、言わなくても、園長先生と話をしたりとか、あとまた視察も行ったりとかすると思うので、そのときにお伝えできればいいかなと思うんですけど、そこだけ言いたいなと思ったので、この間、お時間をいただきました。ありがとうございます。

【竹内会長】 今に関して、能登屋委員にもう一回、日々お使いになっていて、矢川保育園の感想といいますか、それは共有していただいたほうがいいということで、もう一度お願いします。

【能登屋委員】 能登屋です。ありがとうございます。先ほど、他の委員がどなたかおっしゃっていたかと思うんですけど、荷物を預けるところが狭いなというのはすごく印象的でした。あと、お部屋もやっぱり縦長というか、正方形のほうが使いやすいんじゃないかなと思うところがあったりもしていて、幼児室もバウムクーヘンを切ったような形と、田中委員はおっしゃっていましたが、あそこはどうなのかなと思ったり。そういうところは、今後ヒアリングもあるので、先生方がどういうふうに過ごしているのかというところは、聞きたいなと思ったりしています。

あと、ソフトの面ですけど、去年か、2年前か、自分が子どもの保育参観で行ったときに、自分の子どもは当時2歳だったんですけど、4歳のお子さんが、お部屋で自分の居場所がなくて、フラストレーションがたまったときに、ちょっと気分転換で2歳の子と一緒に遊びにきたりとかする経過があったんです。ただ、その子を1人で遊んでおいでとかということじゃなくて、ちゃんと担任の先生も一緒に、2歳の子たちと交ざってくれて、4歳の子はお世話をして、ちょっと満足して、また4歳のクラスに戻るといったことがあったんです。

それはすごく印象的で、年齢で区切る日本のやり方というところがある中で、どの子にとっても居心地のいい場所、自分は必要とされているんだ、大事だと思ってくれているんだという経験をさせてくれていたのは、ソフトの面ではすごくいいなというところがありました。

公立保育園に行くのはこれからなんですけど、すごく楽しみにして、それぞれのよさとか、少し持ち帰ってこれたらいいなと思っています。

【竹内会長】 皆様、どうもありがとうございました。語りつくせぬところもありますし、それぞれ御専門の方もいらっしゃるし、経験をお持ちの方もいらっしゃるの、それぞれいろいろな見方を共有して、もう一回見て、ああ、なるほど、あの人が言ったのはこういうことがだったんだ、見てみたいぐらいではありますけれども、一旦ここで感想という形で記録に残しましたので、また次回につなげていきたいと思います。

皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、議題2を終えまして、議題3です。ヒアリングの運営方法及び質問内容についてです。事務局、お願いします。

【事務局】 ヒアリングにつきまして、対象、日程、質問項目につきまして、それぞれ御説明いたします。

1点目、ヒアリング対象についてでございます。まず、市から派遣されて、開設初年度から令和4年度まで、矢川保育園で園長を務めていた者と、開設初年度に保育士として勤務していた者、共に現在は市に戻り、別の公立園で勤務している2名に打診をしております。また、事業団側のほうといたしましては、第2回審議会でも御説明をいただきました、矢川保育園の現在の園長と、事業団の事務局長の2名に打診をしております。

2点目、ヒアリング日程についてでございます。派遣職員、事業団職員、双方へのヒアリングを1回で行おうとすると、1回当たり2時間開催している本審議会ですと、時間がやや足りないのではないかというふうなことを考えました。より丁寧にヒアリングを行うとするならば、2回に分けて実施する案を御提案させていただきたいと思います。

2回に分ける場合は、なるべく間を空けないほうがよろしいと考えます。1回は、既に日程調整済みの1月22日の水曜日、2回目は2月の第1週目までの日で調整がつく日とを考えております。

3点目、ヒアリング項目についてでございます。資料1の6ページ目に、市派遣職員向け、7ページ目に、事業団職員向けの質問項目、事務局案を一覧として掲載しております。こちらは、前回審議会でご確認いただいた7点の検証項目、引継ぎのプロセス、保育内容、事業団による保育園運営、施設管理、職場環境、安全管理、地域の子育て支援に対応させる形で、これまでの審議会であった委員様からの御発言を参考に作成した項目を表にまとめたものでございます。

本日は、これらについて、追加の質問すべき項目がないかなど、御意見を頂戴したいと存じます。なお、本日まとめる質問項目は、事前に派遣職員、事業団職員に送付したいと考えております。よろしくお願いいたします。

【竹内会長】 ありがとうございます。ちょうどここで、先ほど、竹本委員が。先ほど、御感想を、今ちょうど視察に行った感想といいますか、気づいた点に関して各委員で出そろったところであったんです。ちょうど、じゃあ、次に行こうかなというところだったので。気づいた点をざくばらんという形になります。

【竹本委員】 すみません。本当に遅れて申し訳ありませんでした。私は、結局、新しい矢川保育園しか、1か所しか行けなかったんですけれども、皆さん、専門家なので、保育園がどういうところか、子どもにとっての視線、目線というので、どういうふうな造りのほうがいいのかというのは、すごい聞きながら、逆に私、なるほどというふうに思ったところです。

ただ、1つのすごく名の知れた、なので多分さんざん出たと思うので、そこは言わないにしても、すごい専門家が、名の知れた方が設計されたというふうにお聞きして、そういうよりは、本当の保育園のプロの人に造ってもらうとか、何かその専用の設計士とかがいるというふうに聞いたので、そういうところにやっていると、子どもにとっても、職員さんにとっても、造りとしてはやりやすいふうになるのかな、なんていうことを感想として思いました。

どうしても仕事柄、保育士さんがどう対応しているとか、お母さんの表情とか、子どもの表情とか、私としてはすごく気になっていて、そこがどういうふうに引き継がれていったのかなとか、こ

の矢川保育園の理念とか、そういうのがどういうふうにみんなで共有されているのかな、みたいなほうが、逆に子どもたちを通じて感ずるところがありました。

ここ、別に批判するところではないと思うんですけども、やっぱりいろんな子がいるなど。今、保育園で、こんなちっちゃいときから、結構、あの子だよ、みたいな、そういう発達の課題というところが、ぱっと見ただけでも何人もあって、1対1でついている子もいましたけども、現状、難しいなというのが、そこが一番感想として思ったところです。

でも、職員の方がいろんなタイプの人がいるなというふうに思っていて、じいっと見ていて、上手に声をかける先生とか、あるいは一緒になって遊ぶ先生とか、いろんなタイプの先生がいるということは、それだけ子どもにとっても非常に豊かな保育の提供になるんだなというふうに、改めてそこは子どもたちの表情なんかを見て思いました。

あとは、遊具が危ないとか、そういうふうに感じたんですけど、そこも本当に時代だなというふうには少し思うところがあって、なかなか今の子どもたち、そういうふうな手の使い方であるとか、そういうところも不器用と言われている中で、危険を全部回避すれば、それは安全性で、いろんなものが安全であることが一番大事だとは思いますが、一方で、子どもの育ちみたいな、冒険して培われていくものみたいなのを、遊具1つ取っても、奥が深いんだな、なんていうところを別視点で感じました。

そのような感想です。以上です。

【竹内会長】 ありがとうございます。すみません、ヒアリングともちょっと関係あるんですけど、矢川保育園、使い勝手が悪いんじゃないか、狭いんじゃないかみたいなことを、うるさいんじゃないかみたいなことを議事録に残しちゃうと——ここは残すべきですけど、ただ、そこに保護者の視点があって、自分の子どもがどんなふうに過ごしているかなあと思いながら、朝預けてきて、帰ってきてどうだったみたいな話のときに、大人どもが、やれ狭いだの、うるさいだの言っているのを見たら、傷つくだろうなあと考えました。

でも、そんなに悪意のある言葉ではなく、事実としてもそうかもしれないので、お子さんがいる場所に関して、つらい事実を突きつけると、それで傷つく人がいるんだなというのは、忘れちゃいけないなと思いましたけれども。でも、やはり、ここは、それでもちゃんとやる場だということは忘れずにやっていかなくてはいけないなとも、同時に思いました。

ありがとうございます。事務局、今資料1の6ページ、7ページでヒアリングをします。1点目、よろしくお願いします。市から派遣された職員さんと、事業団の職員さんとお伺いする。日程、これは、やはり1回に2時間しか取っていませんけど、そこでお二方に来ていただくよりは、しっかり聞きたいので、1回につき、お一方というやり方ではどうかと聞いています。あとは、聞きたい質問内容はこんなところではいかがかということ聞いていますが、御意見、御質問がありましたら、御発言をお願いいたします。

田中委員から。

【田中委員】 2つの項目なんですけれども、まず、立場のところでもって、市の派遣職員のところ、矢川保育園の元園長先生、それから、元残った職員の方、いいと思うんです。事業団のところでもって、事務局長さんは、事業団のいろいろ運営その他に関わる場所かなと思うんですが、保育園の園長先生と共に、リーダー的役割を持った職員の方、全体が見えたり、運営ですとか、保護者対応ですとか、実践内容とか、その辺のところにも触れられて、私たち民間で言ったら、主任とか、リ

ーダーだと思っんですけども、そこをぜひ入れていただきたいなということがあります。

それから、もう一点が、ヒアリングの場合には、どういうふうに2時間の時間を使うのかもありますし、それから、この間、すごく熱心に傍聴に来ておられる方がいるんですけども、傍聴者を交えたヒアリングになるのか。その辺りのことも、持ち方としてお考えを事務局のほうに聞きたいと思っます。

【事務局】 事務局の川島です。まず、矢川保育園の呼ぶ職員については、今御意見をいただきましたので、矢川保育園のほうと調整をしまして、どういった形がとれるのか検討させていただければと思っます。

あと、ヒアリングの形式としては、今日調整をさせていただくヒアリングの項目については、事前にヒアリングをする職員に伝えて、回答は用意してもらおうかと思っております。なので、会の冒頭でこの質問の項目について、それぞれ答えてもらう形で、最初やり取りをさせていただいて、その後でフリーで意見交換、追加の質問とかがあればしていただいたり、逆に、ヒアリングされる側から少しお話をしていただいたりということを、その後フリーでやらせていただければと思っております。

このヒアリングについては、審議会という形で開催をさせていただくので、あくまでもこちら、審議会の委員さんとヒアリングをする職員とのやり取りという形になります。傍聴者を交えてという形ではなくて、審議会の形ですので、そこはあくまでも、委員さんとヒアリングを受ける職員との間のやり取りという形でやらせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【田中委員】 ありがとうございます。

【竹内会長】 どうでしょう、検討していただいて、どなたが来るかは、次回も分からない形なんですか、それとも……。どうしますか、かなり具体的な御提案が委員からも来ているので、私もそうすべきだと思いますが、いかがですか。

【事務局】 人選については、事業団のほうにお願いしてまいりたいと思っますので、そこが確定したときに、当日いきなりこの方ということではなくて、事前に委員さんにはお知らせをした上で開催させていただければと思っております。

【竹内会長】 竹内です。あとは、いろんな方がいろんな御意見がある。これは、ただ1園目でいろんな思いが錯綜していたり、そごがあったりもするようですので、新しいことをしたら、パーフェクトにはならないので、必ずどこかで綻びたり、不満を抱えたり、それはしょうがないので、次に少しでもましになるように、2回目はやるという形なので。

なるべくいろんな意見があっていいと思っますので。いろんな意見があると、一々それに対応しないといけないかもしれないので、つい意見を聞くこと自体をちゅうちょしちゃうんですけど、言うのは言ってもらって、すみません、それはできません、ここまではできますとか、そこは覚悟を持って決めるほうがいいと思っので。

何かパブリックコメント的なのは全然想定していないんですよ。今言われても困るかもしれませんが、何かないですか。やっぱり市の事務局が呼んできた人がいる。その話しか聞かないとなると、それでいいのかというのは結局残っちゃうので、何かいい手はありませんか、事務局のほうで。

【事務局】 事務局の川島です。派遣職員については、ある程度、派遣された職員に意見の集約をして、そのヒアリングに来る元園長や派遣職員とかに発表してもらおうかなというところは考えております。

あと、意見の拾い方として、ヒアリングで全部拾っていくということは、時間も限られております

し、そこはなかなか非常に難しいかなと思っております。あと、個別でアンケートを一人一人に取りますので、そこで記載欄をかなり設けているので、そこでいろいろ書いていただけるような形にはなっておりますので。そこでなかなかヒアリングで拾いづらい意見は、アンケートのほうで拾っていくということで、2段階という形でやらせていただければと思っております。

【竹内会長】 田中委員、いかがですか、今の。その方向であればということで、私もそのとおりの意見です。ありがとうございました。

ほかに、6ページ、7ページ、質問内容等はいかがですか。

竹本委員、お願いします。

【竹本委員】 上のほうでいくと、課題という言葉、民営化されて矢川保育園に派遣されて感じた課題というふうに書かれていて、下のところも、矢川保育園に入ってきたとき感じた課題と。これ、課題を見つけて改善していくというのは分かるんですけど、いいところとか、そういうところも。課題というと、非常にネガティブさの要因が強いかなというふうに印象を受けるので、もうちょっとそこはこととか。ことだと、ちょっとあれですか、ボキャブラリーがないので分からないですけど、課題に限定しなくていいのかなというふうに、見たときに思いました。

【竹内会長】 1つ、御意見は、課題というと、どうしてもネガティブなほう先に目が行ってしまうので、そうではない聞き方で、例えば「こと」にするとかいった御意見を、今1ついただきました。

ほかに御意見いかがですか。お願いします。

【宮田副会長】 宮田です。今の御発言はすごく、なるほどというふうに思いました。ことっていうほうがいいのか、答えやすいのかなというふうに思いました。やっぱり、課題というのは、別にそのもの自体、ネガティブなものでもないんですけど、だけど、やっぱり、この会は今後に向けてできることは何かということを考えていく機会だなと思いますし、建設的な議論をどうしていくか。

次に向けて、新しいアイデアをどう生み出していくのか、そういう建設的な議論の場になるというのが重要なというふうに思うのと、確かにここはそういう印象もあるものよりも、「こと」ぐらいにとどめておくのはいいかなと思いました。

【竹内会長】 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

【久米委員】 久米です。私も、ちょっと戻っちゃうんですけど、アンケートのときの意見で、同じようにネガティブなことばかりじゃなくて、よかったことということも入れてほしいなと伝えた1名なんです。私も、ちょうど同じようなことをお伝えしたいのと同時に、人の心理なんですが、下から2つ目の、民営化したことによる保護者からの苦情、不安というのも前に来ると、これもネガティブな話題を言わないといけないかなと。

それだけじゃなくて、変わったことで、保護者からのいい意見とか、ここがよかったとか、さらになくなってきたとか、そういうポジティブな声も聞けるといいのではないかなと思いました。

【竹内会長】 どうしても改善、第2回をよりよくしようとする、うまくいかなかったところをまずはあぶり出したいくなる気持ちは確かにそうなんですけど、逆に、ちゃんとうまくいったところも踏まえておかないと、1回目につかりそれを忘れちゃうこともあり、ここはうまくいった、ここは微妙だった、うまくいかなかったみたいなこともあるので、うまくいったところも言えるようにと。賛成です。

ほかにいかがですか。田中委員。

【田中委員】 ちょっと分かりにくいので、お伺いします。一番大変なところは、新しく担った側



と、それから残られた先生たちが、どういうことで意見を収束していくというか。先ほど理念という言葉が何度も出されていますし、それから、大切にしていることとか、きっといろんなやり取りが具体的にあったかと思うんです。そういうところから、改善にというか、スムーズに事業団のほうに移行していったものと、それから、どうしても食い違いが出てきたもの、もしかすると、それは公立園が積み重ねてきた大切なものと、それから事業団でというところの関係にもなるのかも分かりませんけれども。

この質問内容で見ると、事業団のプロパー職員——プロパー職員って、よく意味が分からないんですけども、事業団の職員と、残った市の公立の職員の方が同じ職場で働く中で、会議の中なのか、子どもの見方なのか、遊具、環境なのか、日課なのか、きっと出てきたかと思うんです。そういったものを少しでも具体的に伺えたらいいなと。これは、市の派遣職員、どこでもそうですし、事業団の職員の方にもそうなんです。

言葉が違うということではないんですけども、その辺り、どういうふうに整理したらいいか分からないんですが、教えてください。

【竹内会長】 事務局に聞きますか。事務局のほうに、たたき台ということだと思いますが、一応この言葉の意味みたいな感じを教えてください。プロパー職員等々、お願いします。

【事務局】 すみません、プロパー職員、事業団のほうで新しく採用された、元から事業団の職員さんというような意味になります。

【竹内会長】 大丈夫ですか。

【竹本委員】 その言葉に変えたらどうでしょうか。

【事務局】 失礼しました。あと、それと、続きまして、おっしゃっていただいた中で、この「事業団の一言葉を変えますが一プロパー職員と市派遣職員が同じ職場で働くこと」と書いているところが、この項目でいうと、5番の職場環境のところだけに丸をつけさせていただいていたのですが、田中委員からおっしゃっていただいたところだと、2番のところだったりとか、そういったところにも丸、そういった観点でもヒアリングをしていくということかなと思いますので、そこについて、職場環境以外のところにもヒアリングしていくということでよろしいですか。

【事務局】 補足で少し、すみません。質問の項目のところを、田中委員のおっしゃっている趣旨としては、事業団の職員と派遣職員がどう協力して生み出したかみたいところを、多分おっしゃりたいのかなというふうには捉えております。その書き方を、協力してどういったことをつくり出したかみたいな、そういったところを聞けるような質問を、事務局で考えさせていただければと思っております。

そこが多分、一番下のところの質問の内容を少し追記する形なのか、あるいは、別の項目をつくるのか、その辺り、事務局のほうで考えさせていただいて、改めてまた御提案をさせていただければと思っております。

【竹内会長】 よろしいですか。ございますか、田中委員。

【田中委員】 田中です。多分、全般にわたるこの1から7のところになるかと思うんですけども、今言われたような職場の環境のところ、保育の中身、事業団による保育園の運営のところ、これはやっぱり公立と、民間と、どうしても違いが出てきますし、でも、その双方のよさといいますか、培ってきたものがあると思いますので、質問の項目のところを考えてもいいという話もありましたし、結構大事な部分だと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【竹内会長】 ほかに御意見は、いかがですか。

【能登屋委員】 能登屋です。よろしくお願いします。先ほど、ちょっとお話も上がっていたかなと思うんですけど、事業団職員のところで、多分、追加でしていただけるということでお話はしていて、あと市の派遣職員も、ぜひ元じゃなくて、今の先生方に入っていただきたいなと思っています。

理由としては、最初って、多分市の派遣職員がすごい多かった中で、だんだん派遣終了に伴って、市の職員と事業団の職員の割合がちょっとずつ変化しているんです。なので、その人数によって、人数比率が変わることによる変化があると思うので、そこを伺いたいなと思っているので、検討をお願いしたいと。

あと、今ここに出されている質問項目、プラスアルファで、多分ヒアリングを進めていくことに、今話が上がっているかなと思うので、そのプラスアルファのところの質問というのは、多分民営化に関するアンケートをとって集約したものから、多分聞きたいことってまた出てくると思うので、ヒアリングまでに、このアンケートの集約を、もし可能であれば事務局さんをお願いできればと思っています。

以上です。

【竹内会長】 事務局から、アンケートの最終の時期をお願いします。

【事務局】 アンケートにつきましては、一応年内で締切りがあって、年明けに集計が可能かと思っていますので、次回が1月22日ですので、その前には皆様に郵送ないしメールなどで、あらかじめ結果を送付できるように考えております。

【竹内会長】 ありがとうございます。竹内です。これですけど、保育園は、つまり民営化が起されれば生まれ変わるわけですね。完全に全く異なるものではないですけども、継承しつつも、生まれ変わる感じですので、前回の答申にもありますけど、別に私立だ、公立だということではない。本当にそうじゃないと思うんです。

であれば、ここの項目2、3、4といっぱいにあった、保育内容はどうなのか、運営はどうなのかというところを聞いちゃうんですけど、これも生まれ変わるのであれば、ちゃんと、民営の保育園さんにしっかりやっていただければいいはずで、多分、①の項目1ですか、引継ぎはどうだったかというところを、むしろ丁寧にやるほうが、何となくまだこの辺に改善の余地がある感じがするんです。

ですので、また事務局のほうにいろいろ頼んじゃってあれなんですけど、どのようなものであったかというのは、年数がないと分からないです。人によっては多いというのは、ある人は少ないと言うけど、幾つのことで、10回で多いのか、少ないのかとか、結局は最後はそこに集約するのではないかと。

随分、事務局の方にお伺いすると、保護者向けの説明会等々、民営化通信でも、いろいろ事の進捗を都度発信していたらしく、頑張ってきたということなので、ある程度の、それでどこまで行ったのか、十分なのか。逆に、ずっと、その場で、何年前か、4年ぐらいですか、振り返って、当時の広報のしおりみたいなものを見て、確かにいっぱいあったなど。

でも、今から考えると、この辺の情報が全然なかったとか、それこそ設計の段階で、もしかしたらユーザー目線というか、実際に働いている方の目線が入っていなかったかもしれませんが、そのところをもっとちゃんと検討するのが、この諮問でやるべきところで、どんなに変わっちゃったのかとか、こんなに違うねという話ではない。違うのは違う園なので、項目1に力点を置くべきかと、私は思います。

質問項目ですけど、どうしてもこの表で見ると、ほかの質問項目も多く見えるんですけど、一番多いのは項目1から項目2ぐらいでいいはずですよ。あと必要なのは、実際に引継ぎに当たってどんな研修があり、例えばどんな説明会があり、保護者向けの、職員さん向けの、あるいは事業団さん向け、さらには、その事業団に入札、応募をなさってきた団体にどのようなあれがあったのか。あるいは、宮田先生がおっしゃったように、理念の新しい箱と言ったらあれですが、箱を見たときに、ああ、こういう理念が、新しいものがありそうだというのが、実はあったのか、なかったのか、ここが項目1で大事だと思うんですよ。

あとは、項目2からそれ以降は、逆にある意味、お任せしてもいい話、あるいは、お任せせざるを得ない部分なので、これは項目1をもっと聞きたいですということで、皆さん、項目1を聞いたらいいかなという御提案と、事務局には、すみません、引継ぎのプロセス、研修を何回、いつやった、建物の設計段階でどの程度、現場の意見を言える機会があったのか、なかったのか。あるいは、事業団の下に応募を皆さんにかけてもらうときに、どのような仕様書だったのか、事前にどのぐらいあったのか、あるいは、現場の職員さん、市の職員さんと、事業団で入ってくる人たちとの研修なり、意見交換の場というのは、実際どの程度あったのか等々を全部出していただいても、かなりある。

誰も悪意でやっていないと思うんですよ、ここは。だから、あそこはいけなかった、ここはいけなかったと、後から出ますけれども、ああしてやろう、こうしてやろうという悪い人はいないので、どうしてもうまくいかなかったら、じゃあ、次はこうしようというのを、前向きに提案していきたいなと思います。項目1が、私は大事だと思います。竹内でした。

久米委員さん。

【久米委員】 久米です。私が読解力がなくなっているのかもしれないんですが、引継ぎの方法はどのようなものであったかが、なぜこれ、保育の内容が丸されていないのかなというのがあります。引継ぎの方法はどのようなものであったか、方法はやり方だけなんですかね。保育の内容もどういうふうに引き継がれたのかなというのは、なぜかなと。それをずっと理念の話をしているのに、この項目の2に丸がないのは、私はもやっと引っかかったの。

保育の内容、理念、外身も大事なんですけど、中身も大事だと思うので、その保育への思いというのがどういうふうに引き継がれたのかなと。ほかのところも重複すると思うんですが、この項目の2に、一番最初のところに丸をしてほしいなという気持ちがあって、一言。

【竹内会長】 ありがとうございます。私もうっかりしてまして、今の久米委員におっしゃっていただいたとおり。④、施設管理、備品等とありますけども、これは、新しい民営化後に必要だろうと思う備品を選んだのは、民営化前の職員さんたちという形ですね。これ、事業団にしたから、事業団の中には保育の現場に詳しい人がいなかったの、どうするかというのはまだ決まっていない段階で備品は注文しなきゃいけないという形で、公立園の保育士先生たちが選んでくださったと。

このことは、矢川の園長さんに聞いたんですけども、せっかく用意してくれたものがあったんだけど、必ずしも全部使えていない、使っていない。あとは、保育の方針がちょっと違うところがあったりして、使っていないものも実はあるんですという形があって、誰が別に意地悪したとか、悪い気持ちじゃないと思うので、いろいろあると思うので、もし呼ばなかった中だと思いますけど、タイミングで、今事業団にしたがゆえのタイミングの違いみたいなのもあると思って。

やっぱり引継ぎは、項目に丸がつくか分かりませんが、今、久米委員がおっしゃっていた、保育の内容の引継ぎをどういうふうにするのか、あるいは備品の引継ぎをどうするのかというのに関わっ

てくるので、丸はいっぱいつきそうかなとは、ちょっと思いました。ありがとうございます。

【宮田副会長】 ありがとうございます。宮田です。そうだなと思いつつ、2番目との差が分かりづらいとは思いました。でも、いわゆる反構造化みたいな感じで考えてよろしいでしょうか。大体この方向性で聞いてきているけれども、聞いている中で、言葉が変わって行って、広がったり、狭まったり。そういったところでは、1と2で網羅したという感じで押さえていくというのが1つかもしいないとも思いました。

そうですね、私もだんだん、頭が回っていないかもしれないですけども、いいようにも見えてきましたし、確かにそこは、でも、そこは聞かなきゃいけないところはあるなというところでした。すみません。

【竹内会長】 ほかに、どなたかいかがですか。

竹本委員、お願いします。

【竹本委員】 全然話がそれてしまうかもしれないんですけど、こういった何を聞き取って、何を目指していくかみたいなきに、ついつい私の中で生まれる疑問は、いつも時代なのかとか、時代の風潮なのかとか、この公立のよさとか、私は個人的にはあると思っているんですけども、そのところも時代とともに変化していくものなのか、とか。

ずっとこの矢川の園長先生が来てくださったときから、コロナの影響や、不審者の対策だとか、本来の保育って何というふうな、そこと率直にぶつかるようなところが、私の中で実はずっと拭い去れなくて。でも、最終的に、やっぱり家が育てているわけじゃないから、人が育てていくと思ったときに、こういった理念とか、どういうふうにしていききたいかみたいなのを、大事にして、検討していくということが中核であってほしいなというふうなところを持ちつつも、何か確かに変わっているものもあって。

変わってきているもの、保育に対して、保護者の姿勢なんかも、何を求めているかみたいなもの、かなり保護者によって結構まちまちになってきているなというのを感じます。何が言いたいかというところ、どこに主軸を置かって考えたときに、プラスアルファ、またちょっと話がかわっちゃいますけど、国立市は独自のものって、私はあると思っています。

市民自体が権利意識が高いところとか、そういうところも含めて、国立市がそれこそどういう保育を目指していくか。ここって、国立市の枠だと思うので。人を育てるときとか、いろいろ考えちゃうんですけど、でも、国立市がどういうふうなこの保育園を考えて、捉えてというところには、最終的に行き着くのかなんていうことも、ちょっと思いました。

まとまりがないんですけど、ヒアリングをするときって、いかようにも、こちらの意図で聞き取っていかちゃうというところが、怖い面でもあるなと思っています。この委員の中でも、共通していることと、違うからこそ、委員が成り立っているわけで、視点とかが違うから。そこが非常に人を保育するって、根本的にすごいことだなと思うし、難しいなというところを、この質問項目だけでも、皆さんの意見を聞いていて感じました。

すみません、まとまりないですけど。

【竹内会長】 ありがとうございます。いかがですか。事務局に確認を取りたいんですが、私からのお願いとして、引継ぎの研修の回数、説明会の回数、ないしは資料で、回覧でもいいんですけど、こんな広報を出したよみたいなものって、次回までに頂けそうですか。

【事務局】 事務局の川島です。第1回のときにも、これまでの流れみたいな資料のほうは出させ

ていただいていた。ただ、資料の量もかなり膨大でしたので、初回でかなり駆け足で説明したところもあるので、改めて事務局側として出せるようなものについては、資料としてお出しさせていただければと思っております。

準備にお時間をいただいて、次回のときなのか、その前に事前にお送りするのか、その辺り、すみません、タイミングがまだはっきりこの場でお答えできませんが、準備をさせていただければと思っております。

【竹内会長】 第1回に頂いたというのは、流れでしたっけ。私が申し上げたのは、ほかにも、何月何日にこんな説明会をしたとか。

【事務局】 民営化通信を全号、お配りをさせていただいて。ただ、これも全部、民営化通信という形でお配りしているので、まとめた内容ではないので、少しこの辺り、まとめて分かりやすくとか、まとめさせていただいたものを、お示しできればなというふうに考えております。

【竹内会長】 私の認識不足がありました、申し訳ありません。これですね。こちら、第1回のとき、資料8ですか、保育園民営化通信、すごいですよね。これ作るの、大変ですよ。何枚ですか、たくさん出てきます。ただ、私も行政に近い仕事をしたりすると、困るのは、皆さん、お忙しいのもあって、なかなか読んでくださらないのがあって、いざ事が動くと、聞いてないぞという反応がどうしてもいろんな行政で出てきて、大変だと思うんです。

その辺、もう少し、もしかしたら何か知恵があるのかもしれない。ということで、すみません、私も復習してきます。まず、保育園民営化通信というのがあるので、これは保護者さん向けですよ。ということで、職員さん向けって、何かこういう形があったんですか。

【事務局】 事務局、川島です。民営化通信については、職員のほうにも周知をしているので、保護者向けではありますけど、この内容については職員のほうにもお知らせするような形でお作りはしております。

【竹内会長】 ありがとうございます。もう一回、皆さん、第1回の資料8で、この保育園民営化通信に関しては頂いているので、各自、復習してヒアリングに臨みましょうという形で、私もちゃんともう一回、復習します。ありがとうございます。

では、ヒアリングのやり方、質問項目、あと、これ、現在、案なんですけれども、これは今いただいた御意見を集約して、会長、副会長、事務局で決めてしまってもよろしいですか。

よろしいという形で、皆さん、うなずいていただきました。ありがとうございます。

ヒアリングですけれども、先ほど申し上げました、いわゆる正解というのがあって、そこからずれたものはみんないけないということでは、決していないので、どうしても思いが高まると、つい責めたり、否定したくなっちゃう。私も気をつけなきゃいけないんですけど、なるべく追及みたいな形にはならないでヒアリングをしましょう。あくまでも、子どもたちのためにというところは、維持していきましょう。よろしくお願いします。

よろしいですか。

では、議題4、今後のスケジュール（案）のほうを、事務局より御説明いただきます。お願いします。

【事務局】 それでは、スクリーンのスケジュール（案）、資料の8ページ目でございます。こちらについて、簡単に今後のスケジュールの案ということで御相談になります。

まず1行目のところで、今のところ6名の委員様に現地視察をしていただいて、次の行、本日お配

りするアンケート案のとおりで、これから、速やかにアンケートを送付させていただこうというふう  
に思っております。順番が前後してしまっているんですけども、一番上の第4回審議会が本日になり  
まして、まだアンケートを送付していないので、ここが逆になってしまっているんですが、これから  
送付するような形になります。

本日は第4回審議会、11月27日にスケジュールの都合上、日程がつかなくて申し訳なかった  
んですけども、まだ視察に行かれていないお二人の委員様に、矢川保育園と西保育園の視察をして  
いただきます。12月20日にアンケートを締め切り、1月、年明け上旬ぐらいまでには、皆様にア  
ンケートの結果を速報という形で届けさせていただきたいと思います。

第5回審議会が、前回、日程調整をさせていただいたとおりで、1月22日になっておりますが、  
ここで（仮）と置かせていただきましたが、ここで両方のヒアリングをするのではなく、先に市の派  
遣職員に向けたヒアリングをまず1回を取り、それとは別で、2月早々ぐらいに第6回という形で分  
裂させて、事業団職員のヒアリングを分けてやろうかというような提案でございます。

そうしますと、今年度の審議会をここで、来年度、第7回ということで、4月にアンケート結果や、  
ヒアリングを振り返り、それと、諮問のところの保育の質、これについてというところで議論を始め  
ていただきたいと考えております。

また、今年度、矢川保育園の第三者評価を受けているところですので、4月頃には、その結果を各  
委員様に共有できるかというふうに考えております。5月に、第8回審議会ということで、「保育の  
質の確保・向上について」をまとめ、それと「人的・財的効果について」の評価検証についても御議  
論いただくことになります。第9回で、7月に1個目の諮問内容であります保育整備計画の今後の方  
向性について御議論いただいて、最後、第10回、9月に最終報告、答申という形で考えております。

第1回審議会においては、令和6年度に6回、令和7年度に2回、全8回ということで、会議日程  
をお示ししておりましたけれども、令和7年度に4回開催し、全10回の会議日程に引き直しさせて  
いただくような御提案になります。皆様、お忙しいところ恐れ入りますけれども、御承諾いただける  
かどうかというところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**【竹内会長】** このような予定で行きましょうという形ですが、御意見ありますでしょうか。スケ  
ジュール案はこのような進めるという形で、御了承いただいたとします。

最後に、議題5で、その他です。事務局のほうからよろしくお願いします。

**【事務局】** その他につきまして、まず1つ目でございますが、「国立市保育整備計画の今後の方  
向性について」のアナウンスさせていただきます。本審議会の諮問事項は2点ございます。1つ目が  
「矢川保育園民営化の評価検証について」、本日もこちらについて御審議を進めていただいたところ  
でございます。

そして、2点目が「国立市保育整備計画の今後の方向性について」となっているところでござい  
ます。保育整備計画につきましては、第1回審議会を開催するに当たってお配りしているようなところ  
でございます。当日のところでは、簡単に御説明をさせていただいているのみとなっている状況でござ  
います。皆様、事前にお配りしたのを、本日お持ちいただいていますか。大丈夫でしょうか。何部  
か予備がございますので、もしお手元になれば……。

おさらいになりますけれども、保育整備計画の計画年度は令和5年度までとなっております、今  
後、国立市が次期計画を策定していくということになっております。計画上に書いてあるところで  
と、なかよし保育園は公立保育園として継続して、また「基幹的保育園」の役割を担う方針を定めて

おります。スクリーンに赤字で投影しておりますとおり、次期計画の策定の参考とするため、これから実現していくべき市の保育施策についての今後の方向性であったり、2園目以降の民営化園の付加機能について、御意見をいただきたいと存じます。

なお、残る公立西保育園、東保育園のどちらを次に民営化するのか、また、その時期はいつとするかといったことにつきましては、次期保育整備計画に明記することになるかと考えておりますが、そのことについては、審議会の答申が完了したのち、国立市にて検討を進めていく予定でございます。

当面は、引き続き矢川保育園民営化の評価検証に多くの時間を割く必要があるということを、事務局として認識しているところでございますが、保育施策の今後の方向性や、民営化園に求められる機能についても、今後、御意見をいただきたいということで御認識いただけますと幸いです。

本日、頭出しのみとなりますので、御審議はまた改めて行うことになりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、「その他」の2つ目でございますが、次回審議会の日程についてです。次回は、令和7年1月22日、水曜日、午後6時30分から午後8時30分までとさせていただきますと存じます。開催場所は第1回審議会の会場でした、くにたち総合体育館の2階会議室という形になります。

今までのところで、ヒアリングを2回にするところで、特に何の問題もないようでしたら、候補日などをお示しして、調整させていただきたいと存じます。

事務局からの御説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

【竹内会長】 ありがとうございます。2ついただきました。これまでの、前回に関して、こちら、国立市全体的な、この審議会とは別の組織というか、別の枠組みで決めているものですが、そこに我々として、諮問されているほうで、方向性なり、見解を述べる機会がある形なので、諮問書をもう一度見ていただいて、どういうことを聞かれているのかというのを、第1回資料を見て、どんなことを言ったらいいかなというのを、事前に考えていただきたいという形です。今日はまだありません。

2点目は、次の次の審議会日程です。それでは、そちらからお願いします。

【事務局】 候補日としましては、会場等の都合もありまして、2月3日、月曜日の午後6時半からと、もう一つの候補日として、2月7日、金曜日の同じく午後6時半からということであれば、開催が可能でございます。皆様の御都合のほうも調整させていただいて、必ずしもこの2つだけが候補日というわけではないので、皆様の御都合等を伺えればと思います。

【竹内会長】 欠席の方もいますが、2月の3日、月曜日、7日、金曜日、いかがですか。大丈夫そうですか。

久米委員、いかがですか。

【久米委員】 すみません、私事ですが、2月3日は都合がどうしても難しいので、できれば7日にしていただければありがたいです。

【竹内会長】 いろいろありますので、できるならば、3日、7日ということで空けておいていただいて、3日は厳しいという委員がお一人いらっしゃいますが、すみません、いろんな事情がありますので、3日か7日。いつ頃に決まりそうですか、3日か7日、どうしましょうか。

【事務局】 渡邊委員も、今日御欠席ですので、渡邊委員の御都合もお伺いした上で、これは早めに決められるかなと思いますので、もし今週中ぐらいに決められて、アナウンスできればというふうに思っております。

【竹内会長】 3日、7日は、今週中か10日ぐらい、押さえておいていただいて、どっちかに決まりそうだということでもいいですか。では、それで行きましょう。

場所は。

【事務局】 場所は、どちらも国立市総合体育館の2階会議室です。

【竹内会長】 お疲れさまです。場所は、ここではなくて、総合体育館の2階に会議室があるという形なので、そこになるであろうという形になります。これは2月のものですね。

今までいろんな御意見、御感想をいただきました。どうもありがとうございます。

ほか、何かありますか。では、事務局からまたお願いします。

【事務局】 本日もありがとうございました。誤解なきようにということで、ヒアリングの考え方なんですけれども、ヒアリングというのは、もともと、そもそも事情聴取ではありませんので、方向性について、職員全員が出てきて何とかというより、ある程度、審議会というのは限られた期間で、限られた回数で、限られた時間の中で開催しますので、ある程度集約をしていただくということが、まず前提になります。

ただし、職員のそれぞれの個々の思いがありますので、アンケートという形の中で、思っていることについて書いていただきたいと思います。ただし、前回、前々回も申し上げたと思いますけれども、それぞれの職員の考え方、思いもありますので、方法ですとか何とかというのははっきり分かりませんけれども、可能な時間というんでしょうか、期間があれば、それぞれの職員の意見というのでも聞いてみたいとは思っております。そのような機会が設けられればというふうには思っておりますけれども。

ただ、これも申し上げましたが、全員が全員そろったところで、言える人と言えない人、様々いらっしゃいますので、このやり方というのはそれぞれが違うので、どういう方向がいいかというのは、引き続きまた正副会長とも相談をしたいと思います。

それと、派遣で行っている職員だけではなく、当然、事業団で採用された雇用の職員の全員の声も聞かなければいけないと思っています。そうすると、かなりな人数になりますので、その方法というか、手法とか、必要性に応じて、それもアンケート等を踏まえた中で、ヒアリングを終わった中で、どういうことができるかというのを、また御相談させていただければというふうには思っております。

【竹内会長】 ありがとうございます。おっしゃるとおり、あくまでも次につなげるためにという形でやっていきたいと思います。

よろしいでしょうか。今日もいい具合な時間に終わりました。

では、本日の議事はこれまでとし、これをもちまして、第4回保育審議会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

— 了 —